

第6回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時

平成27年9月8日(火) 10:00~12:00

2. 場所

内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、片岡部会長代理、青木委員、折木委員、久保委員、白坂委員、山川委員

(2) 事務局

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、高見宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、松井宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 宇宙安全保障に関する工程表のフォローアップ

- 宇宙安全保障に関する平成28年度概算要求ヒアリング -

宇宙安全保障に関する工程表のフォローアップとして、関係府省等より、宇宙安全保障に関する平成28年度概算要求のヒアリングを行った。関係府省等の当該説明を踏まえ、委員から以下のような質問・意見等があった。(以下、質問・意見等、事務局等の回答)

< 情報収集衛星関連 >

情報収集活動において、商用衛星の利用もあり得るのではないかと。

今後の時間軸多様化衛星やデータ中継衛星の整備により、商用衛星に決定的に頼らなければならないという事態はなくなると認識している。

地理空間情報(GEOINT)の基盤整備に関して、利用省庁との調整状況はどのようになっているか。

本年実施したユーザー・ニーズ調査の中で、GEOINTの活用について、利用省庁からも要望のあったところである。細部は今後、利用省庁と調整して参りたい。

情報収集衛星の経費節減について、どのような取組を行っているのか。

情報収集衛星の運用期間の延長により、経費節減を図る考えである。

昨今、サブメータ級の分解能も期待できる小型衛星が出現してきているところ、当該小型衛星を情報収集衛星の代替として活用できるのではないかと。

情報収集衛星に求められる機能を考慮すると、その代替として小型衛星を活用することは容易ではない。

< 即応型の小型衛星関連 >

中国でも小型、即応型の衛星の取組が進展している。また、米空軍宇宙軍団司令官のハイテン大將が、今後の即応型の小型衛星等の利活用の重要性について言及している。

< 宇宙状況把握関連 >

文部科学省の宇宙状況把握に係る平成 28 年度概算要求は、具体的に何を行うためのものなのか。

主に、既存のレーダーシステムや光学観測施設のための経費である。

米国との議論の状況はどのようになっているか。

SCWG(平成 27 年 4 月に設置された日米防衛当局間で宇宙分野の議論を行うための枠組み)などの場を通じ議論している。

抗たん性に関する検討においては、リモートセンシングや通信などの個々の宇宙システムを連携させることで得られる能力についても考慮する必要がある。また、まずは、抗たん性に係る議論すべき内容の優先順位を整理することが大切である。

< JAXA と防衛省の連携強化 >

ホステッドペイロードとして、先進光学衛星に防衛省が開発するセンサを相乗りさせる等の取組の他、人的交流も大切である。

(2) 海洋状況把握(MDA)に関するコンセプトの検討状況

国家安全保障局より、海洋状況把握に関するコンセプトの検討状況について説明を行った。当該説明を踏まえ、委員等から以下のような意見等があった。(以下、意見等)

MDA に関するコンセプトについて、総合海洋政策本部事務局、国家安全保障局及び内閣府宇宙戦略室が中心となって検討を進めているが、今後は、内閣衛星情報センターを含む関係府省等とも連携しつつ、更に議論を進めていく必要がある。

以 上